



File
21

大分県立新生養護学校

- 所在地：大分市大字玉沢980-1
- 児童生徒数：小学部50人 中学部31人 高等部84人(2007年5月1日現在)
- うち高等部：1年32人 2年30人 3年22人

教育方針

【教育目標】

人間尊重の精神を基調とし、一人一人の教育ニーズに応じた教育を行い、能力や適性を最大限に伸ばし、調和のとれた人格と自ら生きる力をはぐくみ、可能な限り社会参加と自立をめざした人間を育成する。

【めざす児童生徒像】

あかるく、やさしく、たくましく

一般就労に向けた取り組み

■ 作業学習(週2日、午前中に実施)

希望、適性を勘案して3学年を縦割りに編成。7つの作業種目に割り当て、1年間同じ作業種目を継続して指導する。

【作業種目】

- 情報(ワープロ検定3級受験を目指す)
- 軽作業Ⅰ(ソケット組み立てなど室内軽作業、実際に就職してからの作業の訓練につながる)
- 軽作業Ⅱ(流れ作業でメモ帳作りなど)
- 手芸(ミシンで小物入れなどを作成、縫製の訓練)
- 木工(分業で木工製品の製作)
- 窯業(分業で陶器製作)
- 農業(野菜の栽培、加工)

[課題] 適性だけでなく、希望を勘案するため、必ずしも作業能力の高い生徒が、即戦力となる作業種目を学ぶとは限らない。



農業の実習



軽作業Ⅰの作業学習

■ 現場実習(1年生・年間1回、2、3年生・年間2回 各2週間ずつ実施)

- 実際に企業や施設に通い、仕事や生活を体験(多くは実習を通して企業就職が決まる)。
- 3年生は2回目の実習以後も必要に応じて、個別に企業で実習することがある。

[課題] 実習先の確保(希望職種、通勤の便利さ)、就労の可能性のある職種と生徒や保護者の希望が一致しない。

■ 職場開拓

実習企業、就職先企業などは中小企業が多く、障がい者を含め、雇用人数を増やすことが難しいため、新規受け入れ企業をハローワークなど関係機関と協力して開拓している。

[課題] 障がい者の雇用があっても、新卒採用が極端に少なく、年度途中での採用が多い。



Let's Open up
the future together
OITA
2008

卒業生の進路状況

主な就労先はクリーニング会社、食品関係(弁当、惣菜、パン)、ビルメンテナンス、通信販売、通信関係、段ボール加工会社など。このほか福祉工場への就職も。

各年度の卒業生の進路は、一般企業への就職1~9人、福祉工場への就職0~2人、通所授産施設0~9人、小規模作業所4~15人、児童施設措置延長1~9人など。

平成18年度卒業生の進路は、企業3社(食品加工、パン製造、通信販売)への就職、小規模作業所(4カ所)、授産通所施設(5カ所)、更生通所施設、入所訓練施設などへの入所。

進路支援のプロセス(成功事例)

1
STEP

食品加工への就職を希望していた生徒が、1、2年生の現場実習でパン屋を選び、経験を積んだ。新生養護学校が実習先を探しているという広告を見た大分市内のパン製造会社が、3年生になったときこの生徒の実習を引き受けてくれた。

2
STEP

1回目の実習の評価がよく、引き続き夏休みにアルバイトをすることになったが、体調をこわし、ほとんど通えなかった。そのため、就職が難しくなりかけたが、2回目の実習での本人の勤務態度に対して評価が高かったことや、会社に障がいの特性を理解してもらえたことで、新生養護学校から同会社への初めての就職につながった。

3
STEP

同会社の別部門から袋のシール張りの仕事を新生養護学校で受注。在校生が学校内の作業学習の中で、製品を作る訓練をすることができるようになった。

進路支援主任教諭のコメント



熊本 浩介さん

社内で障がい者が担える仕事を選び出したり、その人に合わせた勤務形態や作業の段取りなどの工夫をしたりすることで働ける場所が増えると思います。

少し配慮は必要ですが、一人一人が働きやすいように目配りするという意味では、他の社員を雇う時と同じだと思いますので、「障がい者だから雇用管理が大変」と構えることなく長い目で見、育てる姿勢で受け入れていただきたいです。